



VOL. 19 No.1 University of the Ryukyus Library Bulletin. 1986.3.20

新 入 生 諸 君 に

図書館長 國府田 佳弘

今年も1,300余名の新入生諸君を迎えることになり教職員の方も気分を新たにしている。諸君にはあちこちから数多くの祝福を既に述べられていることであろう。あるいは、中には必ずしも第一志望の大学として来たのではない人も居るかも知れない。しかし、その人達にとっても本学のユニークな良さを理解でき、卒業時には琉球大学に入学して本当に良かったなと思って社会に巣立って行くことを信じている。そのような学生諸君を私達はこれまで数多く送り出しているのであるが、ここで申し上げておきたいのは、本学の良さがわかるのは決して人に教えられて知るのではないということである。高校と大学の大きな違いは、自分達の主体性をもとにした学習課程を組み込めることである。勿論主体性が認められることはそれなりの責任を伴うことも忘れてはならない。

目	次
新入生諸君に 國府田佳弘	1
自然科学系、指定図書をよく利用	3
投書箱より	5
タスクフォース研修記	6
図書館業務電算化通信 No. 1	7
図書館業務電算化日録	11
国際資料コーナー案内	13
本学教官寄贈図書	18
全国国立大学大型コレクションの紹介 (S.53~59年度)	19
ブラウジングコーナー	23
図書館事情	24
医学部分館コーナー	26

大学のシステムも学生諸君の多様の希望を受け入れられるようになっている。課目の選択範囲も高校よりもはるかに広く、クラブも多様である。単に巾が広く多様であるというだけでなく、その内容が質的に異なり、次元が異なる機能を持っているのが大学図書館であろう。

大学図書館は単に参考書を調べ、自習をするところではない。いわば大学の知的機能が集積している所であり、大学の頭脳というべき所である。諸君の目に触れ易い所に一番多く配置してあるのは学術専門書等の単行本で、諸君が学習に際して参考とするものとなっているが、さらに進んで卒業論文を書くための研究に入れば、学術雑誌を頻繁に利用しなければならなくなるであろう。この学術雑誌が重視されるところも大学図書館の特徴である。研究は文献の調査からスタートとするのが常である。諸君はこれまで雑誌というと軽い読み物というように思っているかも知れないが、学術雑誌というのは研究者がそれぞれの研究の成果を報告する論文の集積であり、その大部分がそれぞれの専門家の集りである学協会の機関誌となっている。もちろん我国の雑誌だけでなく世界中の様々な国の学術雑誌が取り寄せられている。いわば世界中の最新の学術情報がここにあるので、これこそ図書館が大学の頭脳といわれる所以の最大のものである。とは言っても、最近の学術雑誌の刊行誌数は膨大なものであり、ひとつの図書館がその全てを収集することはとてもできない。そこで研究者は他の大学の図書館や科学技術情報センターなどの資料を調べる必要が頻繁に起る。これは本学ばかりでなく、何処の大学でも研究所でも同じことであるが、沖縄の場合には直ぐ近くの大きな大学に行って雑誌の有無を調べるというようなことはできない。雑誌に限らず、単行本でも同様である。海を隔てているハンディキャップは小さくないのであるが、本学ではこれを克服する対応を進めている。東京大学に全国の大学の共同利用施設として文献情報センターという施設があり、ここに全国の大学の文献情報が入力され、それぞれの大学から居ながらにして全国の大学の文献情報の検索ができるような計画が進められているが、本学図書館はいち早く大学の大型計算機を介して既にこれと接続しており、端末機から全国の文献の検索ができるようになっているのである。これは全国の大学でも5番目であり、中央から離れている大学としては最初の試みである。諸君がこれから勉学研究を進めて行くうえで、大学が遠隔地にあるというハンディキャップは著じるしく小さくなっていると言えよう。

世界に窓口が開かれているのは学術情報ばかりではない。本学図書館は今年から国連の寄託図書館となっており、またEC（ヨーロッパ共同体）の資料センターとしても認可されているのである。国連の寄託図書館となっているということは国連が出している一切の文書が送られて来ることを意味し、日本には国会図書館や東京大学の図書館を含めてこれまで8ヶ所しかなかったものである。このように居ながらにして世界の最新の情報を得ることができる恵まれた図書館を諸君はこれから利用できるのである。

世界への窓口としてばかりでなく地域の情報も充実している。沖縄というユニークな地域についての文献は琉球大学がどこよりも多く集めていることはもちろんである。沖縄は遠隔地という意味では同じ北海道よりはるかに永い歴史があり収集しなければならない文献も多い。反面、不幸な戦争で文献の大部分が焼失し、これを集めるには大変な努力が必要であったわけであるが、既に地域情報の収集として世界に誇れるものができており、さらに日常的に追加されている。

図書館という呼び名から諸君はそこに収集されているものが文字に限られていると思うかも知れないが、図書館には視聴覚室もありビデオやオーディオのテープなども収集されている。特に医学部分館ではこのビデオテープが講義にも活用され、また、国家試験のための学習資料としても有効に利用されている。また詩は文字だけでは情報量としては半分にしかならないが、オーディオテープで聞けば一步深めた理解ができる。このほか、図書館が主催する巾広い話題の講演会も開かれている。

このように大学図書館は多様な機能を持った情報知識の宝庫である。しかし知識の方から諸君の方へ寄って行かない。図書館に来ればこれからの4年間で取り入れるには無限と言ってよい知識の宝があるのであるから、諸君は積極的に図書館に来てこれらの宝の山を探検してもらいたい。そして自分なりの知識の体系を作り自己の充実をはかって欲しいものである。

(こうだ よしひろ：農学部教授 農産施設工学)

自然科学系、指定図書をよく利用

—— 貸出図書ベスト順位について ——

資料を収集して、それを研究者に提供するという図書館機能の側面から考えてみると、どういう資料がどれだけ利用されているのかという事について興味をそそられる事だろう。大きい予算をかけて購入した資料が果して現実的に、効果的に利用されているのか。そういう事について、これまで隠然と、また公然と問題にされる事が多かった。しかし、資料の総体的な貸出は統計上把握出来たとしても、では具体的に、どういう分野の、どういう資料が、どれだけ利用されているかについては余り多くは語られなかったように思う。競争の激しい出版界では、新刊図書が、どれだけ書店で売られるかについて敏感に察知し、週間、年間ベストセラー本などの公表を行っている。図書館でそういう情報を作ることはあまり意味がないように思われるかもしれないが、しかし、暗い書庫の中でホコリにまみれている淋しい本を見ると、一体金をかけて購入した図書館の本は利用されているのかと危惧するのは誰しもある事ではないだろうか。

そういう事について、幸い琉球大学図書館では貸出業務をコンピュータ化しているので、そのデータをもとにして、図書館資料の「貸出ベスト順位」表を機械出力するようにした。

以下にあげるのはコンピュータ処理できる開架図書のうちで、どういう分野の、どういう資料区分（図書館が図書管理上設けたもの）の、どういう資料が1983年4月～1985年3月の2ケ年においてどれだけ利用されたかを具体的にランクづけしているものである。（紙面の都合上、利用回数が60回以上のものに絞った。）

この順位表からみると、自然科学系の、特に植物学関係がよく利用されている。特に、教官が指定した図書の貸出が非常に多いことである。おそらく、それは講義の内容と、指定図書利用の関連が密接につながっていることの証明であろう。第1位にランクされたのが沖縄地学会の「沖縄の自

然」である。この図書は年間85回利用されている。貸出期間は10日間なので850日間。利用係数（回数×貸出期間／365）が約1.15で、非常に利用効率がよく、年中、借りっぱなしである。こういう利用頻度が多い図書は、副本を設置して対処している。この図書がもっとも利用が多いのは琉大の学生が沖縄の自然に興味を持っているという事でもあるだろう。学術的、研究図書以外のものでは、「司馬遼太郎全集」が23位に登場しているのは面白い。司馬遼太郎の描く小説に共感を憶える学生が多いのだろう。このランクの範囲内に出ていないものは、総記、哲学、産業部門である。

図書館ではこのような図書館のベストセラーともいえるべき「貸出図書ベスト順位」を定期的に公表していく所存である。なお、この順位表を参考にして選書等にも利用していることを併記しておきます。（閲覧係 松原敏夫）

貸出図書ベスト順位 1983年 4月～1985年 3月

順位	回数	著者	書名	分野	資料区分
1	170	沖縄地学会	沖縄の自然	自然科学	指定図書
2	167	石田寿郎	生物の実験法	自然科学	指定図書
3	161	原 稔	植物の形態	自然科学	指定図書
4	150	山下 考介	生物学実験ノート	自然科学	指定図書
5	140	子安美知子	ミュンヘンの小学生	社会科学	指定図書
6	136		日本の歴史	歴史	共用図書
7	121	濱 健夫	植物形態学	自然科学	指定図書
7	121	小倉 謙	植物解剖および形態学	自然科学	指定図書
9	112	宇土正彦	新指導要領による小学校体育の授業	社会科学	共用図書
10	105		講座・心理学	哲学、心理学、宗教	共用図書
10	105	水谷嘉之	化学熱力学	自然科学	共用図書
12	104	佐藤 重平	大学実習生物学実験	自然科学	共用図書
13	103	内田 亨	動物系統分類の基礎	自然科学	共用図書
14	101	佐藤 重平	生物学実験	自然科学	共用図書
15	98	金原 寿郎	基礎物理学選書	自然科学	共用図書
16	94	山岸高旺編	植物系統分類の基礎	自然科学	指定図書
17	90	金原 寿郎	大学演習一般物理学	自然科学	指定図書
18	89	小野 知夫（等）	基礎植物学	自然科学	共用図書
19	85		海洋科学基礎講座	自然科学	共用図書
20	82	地学団体研究会編	新地学教育講座	自然科学	共用図書
21	80	東京書籍株式会社編集部	新訂新しい理科	社会科学	共用図書
22	78	宇上正彦	小学校体育の授業	社会科学	共用図書
23	75	司馬遼太郎	司馬遼太郎全集	自然科学	共用図書
24	73	武村 重和	小学校理科指導細案	自然科学	共用図書
25	73	猪野 俊平	植物組織学	自然科学	共用図書
26	73	木島 正夫	植物形態学の実験法	自然科学	共用図書
27	72	原島鮮	基礎物理学	自然科学	共用図書

28	71	田和健雄	写真と図解によるサッカー	芸術、スポーツ	共用図書
29	71	猪飼 道夫	身体運動の生理学	芸術、スポーツ	共用図書
30	68	広島大学生物学会	日本動物解剖図説	自然科学	指定図書
31	67	中松 竹雄	南島方言の記述的研究	自然科学	指定図書
32	66	田中 二郎	行政法	社会科学	共用図書
33	66	遠藤 浩	民法	社会科学	共用図書
34	65	片桐 重男	小学校算数科指導細案	社会科学	共用図書
35	64	土質工学会	土質試験法	工学	共用図書
36	63	新開 陽一	近代経済学	社会科学	共用図書
36	62	石川 静一	電気磁気学演習	自然科学	共用図書
38	62		電気工学基礎講座	工学	共用図書
39	62	KITTEL, CHARL	固体物理学入門	自然科学	共用図書
40	61	斎藤 勇	イギリス文学史	文学	指定図書
41	60	伊藤博, 稲岡耕二	万葉集を学ぶ	文学	共用図書

＝ 投書箱より ＝

コインを入れて自由に使えるコピー機の設置を多くの学生が要望しています。現在の1枚40円は学生にとってはなはだ高過ぎるし。平日の複写室の使用時間が4:30までというのは、非常に不合理です。

国立の図書館は規定によってそうならざるを得ないと聞いていますが、学生の学業を著しくソガイするような規定は1日も早くなくして、本当に学生が合理的に使えるような図書館にしてほしいです。

回答：コイン式複写機の設置は著作権法上いろいろ問題がありますので、今のところ設置は出来ません。

複写料金は国立大学統一料金（文部省）となっていて、大学独自で料金変更は出来ません。しかし、国立大学図書館協議会においても議題に出され折衝中です。

複写室は午後4時45分まで開いております。（それ以後は、受付した分の複写や1日の会計処理などの業務があります。）諸般の事情で夜間（17時以後、土曜日12時30分以後）は文献複写ができない状況ですが、カウンターに申込んで翌日受け取る方法をとって下さい。

タスクフォース研修記

本郷 清次郎

昨年7月1日よりタスクフォースとして東京大学文献情報センターへ併任で派遣されていましたが、この1月に無事戻ってきました。

タスクフォースとは耳馴れない言葉かもしれませんが。一般的には機動部隊とか特別委員会を指す用語ですが、文献情報センターでは特別研修員、すなわち各図書館から併任の形でセンターに一定期間滞在し、センターの一員として学術情報システム関連の実務に従事しつつ研修をおこなう研修員のことをこのように呼びます。昨年度から導入された制度ですが、今年度は弘前、東北、新潟、群馬、千葉、京都、京都工芸繊維、大阪、徳島、九州それに琉球の11大学から12名の参加がありました。期間は長い人で一年、短い人で五か月弱で最盛期には九人が狭い部屋にひしめいていました。

センターでの仕事は大きく二つに分けられます。一つは学術雑誌総合目録に関連したものであり、他の一つは総合目録システムに関連した仕事です。前者では前年度にデータ編集の終わった和文編のデータ修正、オンラインシステムへの搭載、それに現在行われている欧文編の全国調査に関連してその事前調査、資料やデータシートの様式の決定や印刷・発送、記入説明会の手伝い、問い合わせへの対応などがあります。後者に関しては目録端末操作のデモンストレーション、操作マニュアルの作成、入力データの時差更新チェックなどが主な仕事です。

これらは主な仕事で実際にはこのほかに種々な雑事があり、それにも結構多くの時間をとられます。そのために一日は何時間あっても足りません。時間の感覚が異常になってきます。たとえば本来なら終業時刻である5時15分から、あるいはもっと遅くから会議が始まるのに初めは驚いていたのですが、9月頃には7時から打合せの予定を組んだりしている自分に気がつきました。土曜日ぐらいは明るいうちに帰りたい、というのがその頃の切実な望みでした。

このように日々の仕事や雑事に追われて、センターというスタッフや設備にめぐまれた環境にしながらそれらを生かしての研修が十分にできなかったことは心残りでした。月に一回、特別にタスクフォースだけの自主研修の時間がもらえたのですが、そのための下調べや準備の時間が取れなくて有効に使うことはできませんでした。model204を利用してユーザ言語やDBMSにもっとなじんでおくべきだったと思われますし、小さいながらも関係する資料は結構所蔵されている図書室にももっと浸り込んでいたかったと悔まれます。私自身の時間の使い方のまずさにも起因するのですが、仕事の絶対量の過大さにもその一因があったようにも思えます。

今回の研修は他では絶対に経験できない貴重な体験でした。センターに座っているだけで様々な情報に接することができ勉強になりましたし、沢山の方々と面識ができました。東京大学文献情報センターとの接続、ILISの導入に際しても大いに役立っています。

(整理係)

〈図書館業務電算化通信 No.1〉

東京大学文献情報センターとの接続 ——報告——

東京大学文献情報センターは59年11月に東京工業大学附属図書館（日立）との接続を皮切りに、60年1月大阪大学附属図書館（NEC）、60年6月名古屋大学附属図書館（富士通）、京都大学附属図書館（富士通）と第一期の接続予定館との接続を行ってきている。これらの図書館はいずれも図書館専用の大型コンピュータを持つRC:Regional centerであるが、今年に入って図書館としては専用機を持たずに学内の計算センターあるいは情報処理センターのコンピュータを使って接続するケースが出てきている。1月8日に埼玉大学附属図書館（日立）そして13日に当館（富士通）との接続が完了した。当館は接続の順番としては全国で六番目であるが、共用機の接続としては二番目である。すなわち文献情報センターの計算機（日立）と異種のメーカーのもので、かつ共用機での接続としては最初のケースである。

以下はその接続の経緯、現況、予定などの報告である。

1. 経緯

- 60年5月8日 図書館電算システム運用ワーキンググループで計算センターを通じて東京大学文献情報センターと接続することを確認
- 7月1日 本郷清次郎整理係員をタスクフォースとして文献情報センターへ併任で派遣（12月未まで）
- 9月20日 文献情報センターへ「目録所在情報サービス利用申請書」を提出
- 10月19日 前田正三事務部長、文献情報センターで琉球大学附属図書館における接続準備状況を説明
- 11月19日 文献情報センターより利用承認
- 11月20～22日 金城照子整理係員、文献情報センター目録システム講習会に出席
- 61年1月13～14日 東京大学文献情報センターと琉球大学計算センターとの接続テスト完了
- 1月23日 図書館での端末を使っての実習開始

2. 現況

現在、週二回、火曜日と木曜日に9時から11時まで2時間づつ2台の端末で実習を行っている。このように時間が限定されているのは、近いうちに予定されている計算センターのホストコンピュータのバージョンアップまでN-1ネットと拡張N-1ネットが共時利用できないことによる。

各係1～2名への検索の講習・実習は終了し、今は主として目録登録に備えて整理係4名が実習に励んでいる。現在の週4時間では余りに練習時間が短く、研修計画にも支障をきたしそうであるので、早急に必要な時にはいつでも使えるようになることが望まれる。しかし、バージョンアップの時期が当初予定していた時期より遅れそうなので、暫定処置として、三月には火水木の三日間、9時から12時までの週9時間の利用体制となる。

業務選択 (教育用)

- 1.和図書目録検索 11.和図書目録検索 21.ILL
 2.洋図書目録検索 12.洋図書目録検索
 3.和雑誌目録検索 13.和雑誌目録検索
 4.洋雑誌目録検索 14.洋雑誌目録検索 99.業務終了
 >:

目録/ILLシステムのオンライン・サービス (1985-04-01, サービス開始) の時間帯は、次のとおりです。

平日 --- 9:00 ~ 17:00
 土曜日 --- 9:00 ~ 13:00
 但し、データベース・メンテナンスの為、下記時間帯のサービスは、致しません。
 月曜日 --- 9:00 ~ 13:00
 木曜日 --- 13:00 ~ 17:00

***** センターからのお知らせ *****

教育用データベースのクリアは、毎水曜日のサービス終了後に行います。

画面 1

洋図書目録検索・簡略表示 (教育用) LC

7- 30/ 91

```
>:
TITLE=OKINAWA*
AUTH =
KEY :      ISEN:      LCON:
PUB -      YEAR:
PLACE=      CNTRY:  LANG:
SH =
WORDS=
ID :      PID:
FILE :
7. <GA0262365>Okinawan customs : yesterday and today / [by] Douglas G. Haring.
   -- [1st ed.]. -- 1969
8. <GA02731135>Typhoon of steel : the battle for Okinawa / [by] James and William Belote. -- [1st ed.]. -- 1970
9. <GA02737981>The Korean War / edited with an introd. by Lloyd C. Gardner. -- 1972
10. <GA02790758>Why to ... Okinawa? / By W. Gordon Ross. -- 1971
11. <GA02904303>Folk cultures of Japan and East Asia. -- 1965 (Monumenta Nipponica a monographs)
12. <GA03189481>Okinawa: pawn in the Pacific / [by] James H. McBride. -- 1972 (University documentary research study)
13. <GA03198940>Japan: analytical bibliography with supplementary research aids
```

画面 2

洋図書目録詳細表示 (教育用) LC

1/ 91

```
>:
<GA00302343> RECST:c
GND: SPD: YEAR:1958 CNTRY:vtu TILL:eng TXTL: ORGL:
VOL:      ISEN:      PRICE:      LCON:58012283
TR:Okinawa, the history of an island people ED:[1st ed.]
PUB:Rutland, Vt. : C. E. Tuttle Co., (1958)
PHYS:xviii, 542 p : illus., ports., maps : 23 cm
NOTE:Bibliography: p. 491-518
AL:Kerr, George H., 1911- <
CLS:LC:D589.5 .O4
CLS:DC:952.81
SH:LC$H:Okinawa Island (Japan) -- History//F
REN:001: 58012283 ///r82V008:701217e1958 vtuabc b 00100 eng Y043:
$aa-$a--Y05010 $K4
```

画面 3

3. 目録検索業務の手順と画面

文献情報センターのデータを検索するには以下のような手順をふむ。まず業務選択画面で実行したい業務を選ぶ (画面 1)。業務は図書・雑誌それぞれに和洋に分れているが手順は原則的にはほぼ同じである。検索画面で適当なフィールドに必要なデータを入力してヒットさせる (画面 2)。例ではタイトルに OKINAWA* (*は前方一致検索を指示する) を入力したら 91 件ヒットし、そのうちの 7~13 番目が簡略表示されている状態である。個別のデータを更に詳しく見ることができる (画面 3)。表示されたレコードが NC ファイル (総合目録データベースの本来のファイル) にある場合にはその所蔵館などを見ることが出来る。現在の NC ファイルには図書はそれほど入力されていないので雑誌の例でみる。まず検索したい雑誌の詳細表示画面を呼び出す (画面 4)。次にその雑誌を所蔵している図書館の一覧 (画面 5) の中から一つをえらびその館の所蔵している巻号・年次を確かめる (画面 6)。例では沖縄文化という雑誌を沖縄国際大学が 29 巻から 43 巻までと 45 巻から 58 巻までを所蔵していることがわかる。以上が検索手順の概略である。

画面1：業務選択画面

画面2：検索画面

画面3：詳細表示画面

(洋図書誌)

画面4：詳細表示画面

(和雑誌書誌)

画面5：所蔵簡略表示画面

画面6：所蔵詳細表示画面

和雑誌書誌詳細表示 (教育用) NC 1/ 1
 >:L00 H
 <AN00313750>
 GND: SMD: YEAR:1961 CTRY:Ja TILL:Jpn TXL: ORGL:
 ISSN:0474036X NDLPN:02840 ULPN:0301630000
 TR:沖縄文化 / 沖縄文化協会 112477 アシカ / 4477 アシカ 4477
 VLYR:1(昭和36.4)-
 PUB:東京
 PHYS:

画面4

和雑誌所蔵検索・簡略表示 (教育用) <AN00313750> 1- 18/ 18
 >:D 12
 <AN00313750> 沖縄文化 / 沖縄文化協会. — 1(昭和36.4)-
 MLID: LOC:
 INV: INYR:
 MLNT- AREA: ATTR:
 1. <FA004912> 和洋女
 2. <FA005019> 学習院国文
 3. <FA005256> 国学院
 4. <FA005483> 成城大
 5. <FA005668> 東海大 1 1
 6. <FA005802> 東海大中
 7. <FA006565> 法大文地
 8. <FA006598> 法大沖
 9. <FA006805> 早大図
 10. <FA007433> 南山大人類
 11. <FA007965> 關大図
 12. <FA008155> 沖國大
 13. <FA001889> 東学大図
 14. <FA002848> 阪大文資
 15. <FA003454> 九大文
 16. <FA003591> 琉大
 17. <FA003631> 琉大 国語

画面5

和雑誌所蔵詳細表示 (教育用) <AN00313750> 12/ 18
 >:
 <AN00313750> 沖縄文化 / 沖縄文化協会. — 1(昭和36.4)-
 <FA008155> 沖國大
 MLYR:1969-1982 HLV:28-43, 45-58

画面6

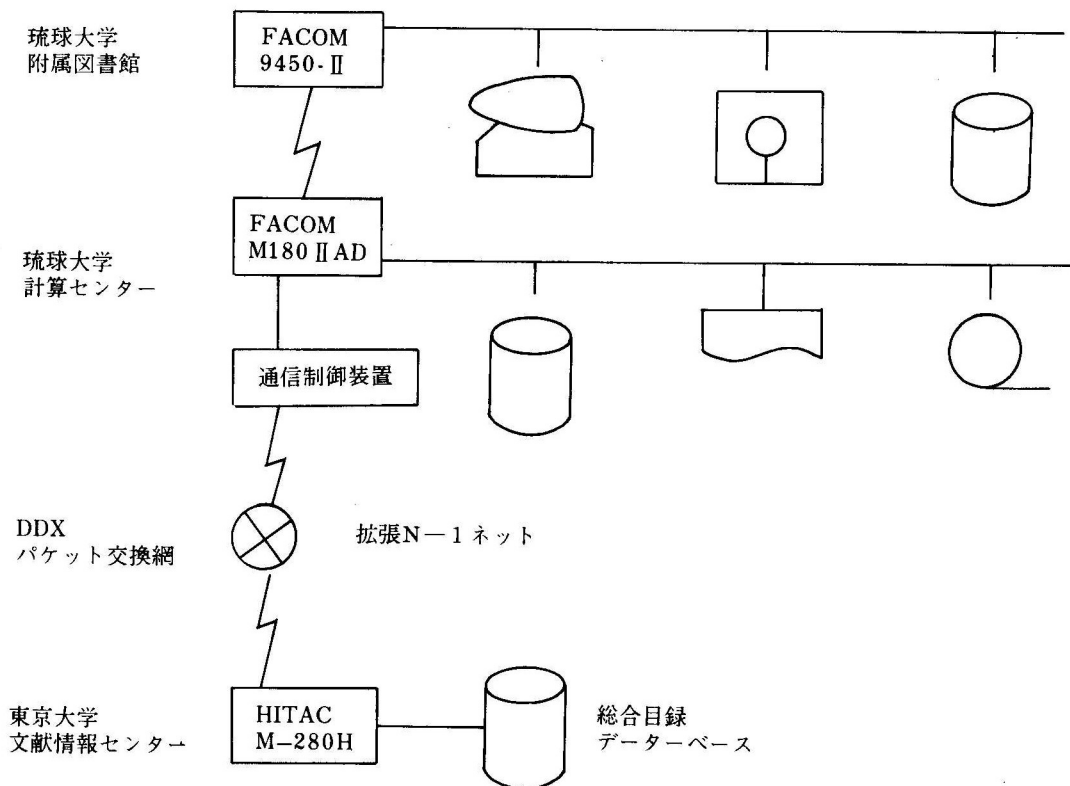
4. 予定

図書に関しては、近く行われるバージョンアップ後には目録登録の研修も本格化することになる。目録システムの新しいマニュアルも文献情報センターでまもなく出来上ると聞いているので、NCR新版・AACR 2の研修も行いつつ、しばらく教育モードでの実習を繰り返し本格的利用に備える予定である。来年度に入ってからホストコンピュータの機種更新とそれに伴うILISのオンラインへの本格的導入の時期にあわせてケース1での実業務モードでの利用に切替えたいと思っている。更に秋にはケース2での利用開始を予定している。

雑誌に関しては、学術雑誌総合目録の欧文編・和文編の磁気テープでのデータが入手できることになったので、それらをILISに載せて利用したいと思っている。

これらを利用して5月頃より学内情報検索サービスも行う予定であるが、その対象は学術雑誌総合目録とJAPAN/MARC、LCMARC、UKMARCなどである。

5・接続の概略図



(整理係：本郷清次郎)

図書館業務電算化日録

昭60.4. ～昭61.2.

年 月 日	主 な 事 項
60. 4.16.	FACOM 9450Ⅱ入荷（受入、整理、雑誌、参考調査、医分館各1台計5台）
4.17.	第1回図書館電算システム運用ワーキング ワーキング・グループ組織変更について
5. 8.	第2回図書館電算システム運用ワーキング 図書館業務電算化基本方針について
6.19.	第3回図書館電算システム運用ワーキング ①名古屋大学、東京工業大学電算化状況について ②NCとの接続について
6.26.	富士通との打合 ①雑誌システム説明会（7月末予定）について ②システムメンテナンス担当者の養成について ③ILISの本稼動に伴う他の利用者との競合問題について
7. 1.	整理係 本郷清次郎東大文献情報センターへタスクホースとして出向（12月末まで）
7. 9.	計算センター長との打合せ ①ILISの導入について ②NCとの接続等について
9.20.	文献情報センターの利用申請書提出
10. 3.	ILIS雑誌システム（発注、受付、帳票）のFACOM 9450Ⅱへセット（本館）
10. 4.	ILIS雑誌システム（発注、受付、帳票）のFACOM 9450Ⅱへセット（医学部文館）
〃	ILIS雑誌システム説明会（富士通）
10. 5.～15	雑誌システムテスト運用及びコード体系の検討
10.16.～23	雑誌受入担当者の実務研修
10.19.	文献情報センターとの打合せ
11. 6.	第4回図書館電算システム運用ワーキング ①雑誌ファイルの作成と利用について ②Japan Marcの購入中止について ③学総目欧文編の調査について
11. 8.	ILISの導入、稼動調査（富山大、京都工芸繊維大）
11.13.	計算センター長との打合せ ①文献情報センターとの接続に伴う諸問題について ②新システムへのレベルアップに伴う諸問題について
11.13.	計算センター、富士通、図書館三者会議
11.19.	文献情報センターより利用承認

- 11.19.～20 京都大学附属図書館電算化見学（尾崎整理課長）
- 11.20.～22 整理係金城照子「文献情報センターの目録所在情報サービス講習会」へ参加
- 11.22. 文献センターとの打合せ
 - 利用開始日及び接続テストについて
- ク 富士通との打合せ
 - ①ILIS各サブシステムの稼動スケジュールについて
 - ②文献情報センターとの接続について
- 11.25. 文献情報センターとの接続テスト日について富士通と調整（61.1.13.に決定）
- 11.28. 文献情報センターとの打合せ
 - 接続申請手続について
- 11.28. ～ 学術雑誌総合目録欧文編データ入力調査及データー記入
- 61. 3.20.
- 12. 2. 通信回線敷設工事に関する打合せ（主計課長、設備課長）
- 12.11. 第5回図書館電算システム運用ワーキング
 - 文献情報センターとの接続日程等について（報告）
- 61. 1. 6. 計算センター、富士通との打合せ
 - 文献情報センターとの接続に伴う作業スケジュール等について
- 1. 8. 計算センター長との打合せ
- ク 第6回図書館電算システム運用ワーキング
 - 文献情報センターとの接続日程及び役割分担について
- 1. 9. 計算センターM180ⅡADと図書館9450Ⅱとのオンライン業務始動
- 1.10. ILISモジュールセットアップ
- 1.13.～14 文献情報センターとの接続テスト
- 1.16. 接続テスト検討会
- 1.20. 文献情報センターシステム利用に関しての講習会
- 1.21. 計算センターとの打合せ
 - 文献情報センターへの報告書等について
- 1.23. 図書館の9450Ⅱを使つての実習開始
 - 当分は火、木の週2回4時間の利用体制
- 2. 4. 拡張文字フォント移植申請書提出
- 2.24.～28 閲覧係松原敏夫京大でILISに関して研修
- 2.27. 計算センター講師鶴岡知昭、整理係本郷清次郎「文献情報センター接続説明会」参加
- 2.28. 富士通との打合せ
 - 開発スケジュール等について

国際資料コーナー案内

本学においては、アジア地域の研究が活発に行われている。また、南に開かれた大学として、アジア地域からの留学生も年々増加している。一方図書館ではアジア研究資料は言うまでもなく、アメリカ研究資料、UNESCO、OECD等の資料を積極的に収集してきた。更にEC、UN資料も入手すべく盡力した結果、EC資料センターとして、昭和60年11月14日付で承認され、すでに96点の資料を受け入れている。UN資料については、ハマーショルド図書館長より国連代表部黒田大使あて書簡をもって国連寄託図書館とすることを決定した旨ファックスによる連絡が昭和61年2月26日に外務省国際連合局国連政策課からもたらされた。このように国際資料が充実してきましたので、教官各位、学生諸君の活発な利用をお待ちしています。次にEC資料と国連資料について概略を述べておきます。

EC (European Communities) 欧州共同体について

1 ECについて

欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC, 1952年発足)、欧州経済共同体 (EEC 1958年発足) 欧州原子力共同体 (EURATOM 1958年発足) のこれら三共同体を総合して1967年7月1日にEC (欧州共同体) は発足した。欧州の平和と経済繁栄の第1歩として、域内関税や輸入数量制限を撤廃して、物資の域内自由移動を可能とする“共同市場”を実現することから始めている。同時に域外に対する各加盟国の関税も“共通域外関税”として一本化されている。共同市場創設により大きな域内市場が生まれ、消費者に商品の幅広い選択と易い価格で提供されるようになった。この基本的政策を推し進めるために、ECは加盟国の合意の下に次のような共通政策を実施している。共通農業政策、共通社会政策、共通地域政策、共通エネルギー政策、共通貿易政策、経済通過同盟。

2 日本とEC

ECは経済統合を軸に総合協力により平和への路を歩んでいて世界平和をめざしている。我国とECは原材料とエネルギー資源の外部依存性、さらに輸入した原材料を加工する高度工業化社会であり、共に貿易立国という立場が共通している。日本とECは双方共通の利益のために根本的な対策が要請されている。そのためには、まず、互いに偏見を除き相互理解を深めねばならない。EC側は「対日輸出振興計画」や「ビジネスマン日本研修計画」などの対日輸出努力を行っている。我国はある程度の対EC輸出規制を行っているが日本市場が更に開放されることが望まれている。

3 EC資料センター設置の利点

EC資料センターは北海道から沖縄までの17大学に設置されている。琉球大学では千原キャンパスの各学部から設置の要望があった。EC資料センターが設置されたことによって、ヨーロッパ経

済の研究に寄与するばかりでなく、ヨーロッパと日本の相互理解、相互繁栄につながるものと思われる。この資料センターに寄せられる資料は生の資料が多く研究者にとっては非常に有効な資料群である。

4 EC加盟国 12ヶ国

ベルギー、デンマーク、西ドイツ、ギリシャ、フランス、アイルランド、イタリア、ルクセンブルク、オランダ、イギリス、スペイン、ポルトガル

E.C. 資料センター承認の経緯

1. EC資料入手希望学部

法文学部

教育学部

農学部

教養部

短大部

2. EC資料センターの設置打診

昭和60年2月5日に瀬名波館長がEC駐日代表を訪ねて口頭で「EC資料センター」に指定してもらうよう要請を行った。

3. 申請書提出

昭和60年2月16日にEC駐日代表部（George M. Deprelle）に申請書を送付した。

4. 設置資格・場所等の視察

昭和60年4月1日に次の2名が来館した。

Mr. Gerge M. Deprelle （駐日代表部所長）

市川 啓子 （資料室専門員）

5. 職員研修

しさつの結果内諾が得られたので、昭和60年5月30日（木）～31日（金）の「EC資料の管理運用」の研修にオブザーバーとして参加することができた。

6. EC資料センターの承認

1985（昭和60）年11月14日付でルクセンブルクのEC出版局より承認の通知があった。

7. EC資料の到着

昭和60年12月3日（火）に初回37タイトルの資料が到着した。

8. 断続的に入手できる資料

- 1 Periodicals 1985 (59タイトル)
- 2 欧州議会議事録 (マイクロフィッシュ版)
- 3 Classification of Eurostat publication (4部類)
 - 3類 人口および社会統計
 - 4類 産業およびサービス事業統計
 - 5類 農・林・漁業統計
 - 6類 貿易統計

国連寄託図書館 (Depository Library) の資料について

〈寄託資料の維持〉

1. 寄託図書館は寄託資料の管理を十分にし、適宜自由に利用されるようにせねばならない。

〈寄託の範囲—本印刷資料(Printed Material)〉

2. 寄託図書館は、市販出版物〈Sales Publication〉 予約定期刊行物Subscription Periodicals、公式記録〈Official Records〉及び条約集〈Treaty Series〉等の本印刷資料を無料、かつ自動的に配布される。ただし、この場合、英、佛、スペイン語のうち、当該寄託図書館が選択した1ヶ国語の版を1部とする。〈国際司法裁判所は資料寄託の手つづきに関して登録業務が事務局から独立して行われる。しかし、一般的に裁判所資料寄託図書館は国連寄託図書館を含む〉三公式用語の中の一ヶ国語もしくは二ヶ国語でのみ資料が出版される場合その他の国語資料の配布を受ける図書館にそれらは自動的に配布されないが、特別に要求すれば、無料で配布される。しかし国連年鑑は英語指定寄託図書館のみへ無料で配布されるが他の国語指定寄託図書館は購入によらなければならない。

3. 次ののべる印刷資料は無償寄託の範囲外となる。ただし購入することは差支えない。

- a 寄託図書館に指定された年よりも前に出た市販出版物
- b 寄託された出版物の重複本
- c 正規の寄託で受けられなかった市販出版物で発行後2年間要求〈claim〉のなかったもの。

〈寄託の範囲—謄写資料〉

4. 完全寄託図書館は国連出版部〈Publishing Service〉が一般に配布すべき文書と決定した資料各1部を指定の国語によって配布される。しかし、のちに公式記録や〈印刷される〉議事録として本印刷されるべき準備文書すなわち(1)参加者〈特にセミナーや派遣調査団等の関係者〉のみ

に配布される資料（２）事務局の職員によって国連内部の使用のために配布される資料（３）開期中、短時日使用する資料〈日程表・議事予定〉（４）新聞に公表するために発行する資料等は配布されない。

6. 寄託図書館は謄写資料〈mimeographed materials〉が出版されてから１年以上経過した場合は請求することができない。謄写資料は〈印刷された〉公式記録または議事録として本印刷された場合は破棄される。また新刊資料の在庫の場所をあけておくため、出版後、１年たったものは破棄される。

〈限定資料〉

7. 限定〈秘密〉資料は本印刷されたものであろうと謄写されたものであろうと寄託の範囲にはいない。またのちに制限資料に再分類される資料も同様である。制限資料に再分類された資料は、国連の各図書館に問合せれば利用できるが原資料の保存部数が少ないので再分類後寄託、請求または購入に応じることはできない。

〈国連に関係のある政府間機関〉

8. 国連は、国連に関係のある政府間機関の出版物の配布について責任を負うものではない。これ等の機関は各々各自の出版物の配布を各自の責任において行う。また、寄託図書館・資料交換・予約の手つづきに関する照会は各関係機関宛に行う。

当館は英語版を選択している。

国連寄託図書館設置承認の経緯

仲地政夫（国際連合公報部）氏から、国連寄託図書館についての情報があり、法文学部の教官方から、設置についての要望があったので、館長瀬名波榮喜教授が折衝を開始し、次の経緯をたどった。

昭和60年 6 月 5 日

館長が東京の国際連合広報センターを訪ね、国連寄託図書館の新規設置に関する可能性を打診した結果、ニューヨーク国連本部での折衝が必要であるとの事であった。

昭和60年 6 月 18 日

附属図書館運営委員会において国連寄託図書館設置の折衝および沖縄関係資料調査のため海外出張が了承された。

昭和60年 7 月 3 日

本学部局長会議で上記の海外出張が了承された。

なお、国連寄託図書館の設置については、折衝の結果を待って正式に部局長会議、評議会に諮

ることになった。

昭和60年7月23日

館長、海外出張 8月5日まで

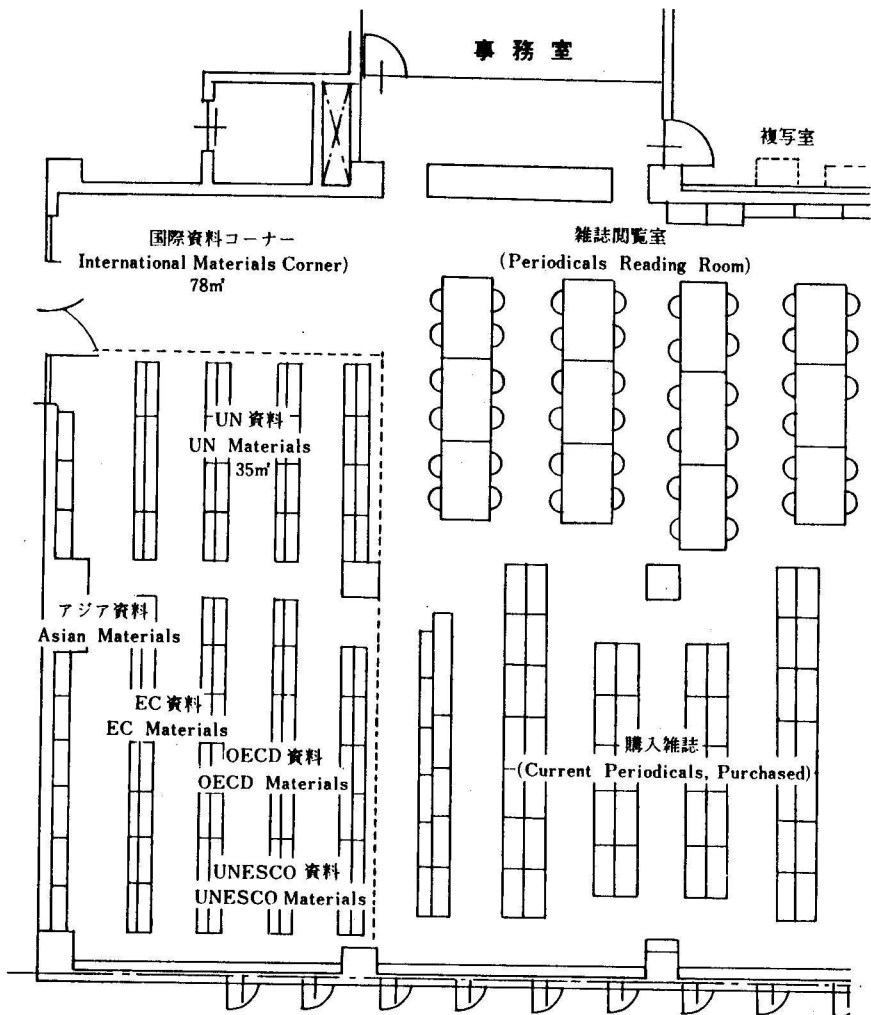
昭和60年7月29日

館長から国際電話があり、折衝の結果、国連本部関係各位の御好意ある御配慮があった旨連絡があった。

昭和61年2月26日

ハマーショルド図書館長より国連代表部黒田大使に寄託図書館に指定することを決定した旨の連絡が外務省国際連合局からあった。

正式通知はハマーショルド図書館長から後日送られるとのことである。



本学教官寄贈図書

昭和60年11月1日から12月31日までにご寄贈いただいた分を掲載します。(敬称略)

伊江朝章(法文学部社会学教授)

「戦後沖縄における社会運動と意識の変動に関する研究」(昭和59年度特定研究紀要) 1985
3冊

大城政一(農学部畜産学科助教授)

「家畜環境論」九州大学出版会 1985 3冊

我部政男(短期大学部教授)

「内務省年報・報告書」第1巻-第14巻、別巻1、2 1982-1984 16冊

「明治国家と沖縄」三一書房 1980

「校本 東汀随筆」至言社 1980

「自由民権機密探偵史料集」三一書房 1981

「明治15年・明治16年 地方巡察使復命書」上・下 三一書房 1980

「元老院日誌」第1巻-第4巻 三一書房 1981-1982

「沖縄県史料 近代3」沖縄県教育委員会 1980

池宮正治(法文学部文学科教授)

「近世の諸問題シリーズ」(第Ⅱ弾～第Ⅲ弾)

「地域と文化」第34号(1985. 12)

安部文彦(短期大学部法経学科助教授)

「マネジメント・リビュー」第3巻-5巻 琉球大学経営学会 1983-1985 3冊

天児 慧(短期大学部法経学科助教授)

「現代アジアにおける地域と民衆」大阪外国語大学アジア研究会 1983

「現代アジア社会の研究」同上 1982

「現代アジアにおける地域政治の諸相」同上 1984

「ASEAN における地域協力」同上 1984

全国国立大学大型コレクションの紹介

(昭和53年～59年度)

昭和59年度までに、各国立大学で購入している大型コレクションは、下記のとおりです。

北海道

- ・ボリス・スヴァーリン・コレクション
- ・18世紀ロシア研究叢書
- ・英・独・仏語によるソ連・東欧研究コレクション
- ・ドイツ法制史・実定法関連コレクション
- ・初期英国文芸誌コレクション
- ・英国外務省外交記録、ロシア・ソ連関係文書
- ・基礎法学並びに一般史関連コレクション
- ・Collection of Russian Emigre Fiction (ロシア亡命文学コレクション)

小樽商科

- ・フランス革命期刊行文書および研究書コレクション
- ・Moniteur Universel (1789～1832)

北海道教育

- ・英国議会教育関係議事録
- ・「英国教育史」関係コレクション

弘前

- ・経済学古典コレクション
- ・初期英語文献協会出版物一覧

岩手

- ・明治年間・大正・昭和年間府県統計書集成 (マイクロフィルム版)

東北

- ・ハンサード英国議会討論報告
- ・米国政府刊行物・議会議事録
- ・米国判例体系
- ・英国古書集成
- ・アメリカ各州判例集
- ・19世紀英国議会報告

秋田

- ・児童発達、精神病学及び心理学古典コレクション

山形

- ・上杉文書

福島

- ・19～20世紀ロシア・ソビエト研究

茨城

- ・英国政府刊行統計資料集成 (1801年～1967年)

図書館情報

- ・NTIS 図書館学 情報科学研究レポート1971-1976
- ・ロシア・ソ連書誌・図書館学資料集成

筑波

- ・心理学・精神病学書コレクション
- ・マックス・ベッソン・ジャポニカコレクション
- ・バウハウス双書と展覧会目録コレクション
- ・The Private Library of Porfirio Diaz, President of Mexico (旧メキシコ大統領ディアス旧蔵コレクション)
- ・国家社会主義法 (1933-1945)

宇都宮

- ・世界農林業センサス

群馬

- ・柳営日次記

埼玉

- ・ドイツ帝国統計集
- ・現代政治学基本文献集
- ・経済統計基本文献集

千葉

- ・ドイツ議会議事録ならびに議会資料
- ・イギリス知体験
- ・ゲルマン史料集成—史家、法律、国王文書等
- ・米国経済基本統計資料集
- ・Collection De Documents Ined its Sur L'Nistoire De France, 325 vols

東京

- ・マザラン誌コレクション
- ・アラブ文化・アラブ学研究コレクション
- ・オーストラリア総合法令集・判例集体系(連邦・各州)
- ・インドネシア関係文献(マイクロフィッシュ)
- ・英国政府刊行物コレクション・非議会資料の部
- ・民国時代公文書資料
- ・舌耕文芸関係資料
- ・英国政府刊行物コレクション
- ・United States Congressional Publications: CIS US Serial Set on Microfiche, and It's Index, pt. 8-12. 64th-91st Congress, 1st Session, 1915-1969. (米国連邦議会資料集: 米国議会、委員会刊行諸種報告書1915-1969 マイクロフィッシュ版及び同索引)
- ・The Nyingma Edition of the sDK-dge bK'a-g'yur and bsTang'yur. Reprinted. (デルゲ版 チベット大蔵経仏説部・論疏部、複製版) 1 set. 117v.

東京医科歯科

- ・ルーヴィエール文庫

東京外国語

- ・アラビア現代史料
- ・ブラジル・コレクション

・モンゴール大蔵経

- ・Collections of Persian Studies (ペルシャ研究基本文献コレクション)
- ・朝鮮日報(1921~1979)

東京学芸

- ・ドイツ教育学集書
- ・英国教育学文献集成
- ・フランス教育学集書
- ・ロシア、ソビエト教育研究雑誌コレクション
- ・ヘボンその他外国人編纂による日本語東洋語辞書集成

東京農工

- ・農業教育用視聴覚資料

東京芸術

- ・音楽学学位論文集
- ・交響曲
- ・ルネサンス寓意図像稀覯本コレクション
(The John Landwehr Collection of Emblem Books) 42冊

東京商船

- ・「キャラバンマリタイムブックス」コレクション
- ・米国海事関係裁判判例集(1923~1955)
- ・Transportation Masterfile(U.S. Historical Documents Inst.) 1921~1971
マイクロ版 運輸問題関連文献集成
- ・Lloyd's Law Reports. (ロイド海事判例集) vols. 1~84 (1919~1980) 注: 1919~1967はLloyd's List Law Reports. となっている。

東京水産

- ・チャレンジャー号探検記

お茶の水女子

- ・女性の歴史

- ・ Collections on History of Women (女性史コレクション)

一橋

- ・ フランス経済学コレクション

横浜国立

- ・ 中国方志叢書
- ・ 世界各国地図帳集成 (歴史地図帳、経済地図帳、地域別地図帳、オリテリウスの世界舞台等)
- ・ Mirabeau Collection (ミラボー伯著作・資料集)

新潟

- ・ 欧州各国公式経済統計資料
- ・ 科学史関係文献コレクション

長岡技術科学

- ・ 工学・技術政策関係文献

富山

- ・ 承政院日記 第1～126

金沢

- ・ フランス法律判例コレクション
- ・ 州主題別法令集 (アメリカ主要各州の法令集)

福井

- ・ ハクリュート協会議書

山梨

- ・ 障害者の社会参加映画
- ・ 文部省選定社会教育映画 体育、レクリエーション編 8ミリフィルム

信州

- ・ アメリカ合衆国経済関係官庁及び行政委員会資料
- ・ 国語学資料集成

岐阜

- ・ 静嘉堂文庫
- ・ 江戸文学總瞰 (マイクロフィルム版) 大東急記念文庫所蔵

- ・ 古写古版物語文学總瞰 (マイクロフィルム版)

静岡

- ・ 国際連盟関係コレクション

名古屋

- ・ フランス、官報及び議事録
- ・ ハンサード英国両院本会議録
- ・ インド立方関係資料集
- ・ ポップスを中心とするイギリス思想史原典コレクション
- ・ 18・19世紀ヨーロッパ総合雑誌集成

愛知教育

- ・ コロンビア大学教育学叢書
- ・ トイブナー古典叢書
- ・ 保健体育、レクリエーション研究文献集成

三重

- ・ 明治、大正、昭和期土地経済及び経済統計資料

滋賀

- ・ アメリカ産業会議刊行物

京都

- ・ アイルランド大学出版局英国議会資料シリーズ
- ・ フランス国民議会議事録
- ・ ドイツ帝国議会議事録
- ・ ロシア帝国議会議事録
- ・ 台湾国立中央図書館善本漢籍
- ・ イタリア史誌
- ・ ペルシャ語文献資料集成
- ・ ワイマール共和国コレクション

京都教育

- ・ 教育情報センター文献資料

京都工芸繊維

- ・ The Poster. An Illustrated Monthly Chronicle V. 1～6

- ・Jan Toorop (1858~1928) 研究資料

大阪

- ・アメリカ政府所蔵日本国政文書(外務省、内務省、法務省)
- ・欧州各国公式経済統計資料(1841~1970年)
- ・ユダヤ研究(Judaica)
- ・法学及び国際法関係図書コレクション

大阪外国語

- ・中国方志叢書 第一期、第二期
- ・イタリア著述家全集
- ・北欧歴史と民間伝承コレクション

大阪教育

- ・知性(旧名・学校と社会)

兵庫教育

- ・全米カリキュラム資料集

神戸

- ・ロシア・ソ連で出版された日本関係文献
- ・合衆国議会公聴会記録
- ・主要米国会社年次報告書
- ・国連公式記録集

神戸商船

- ・近世の廻漕史料(東北編)

奈良教育

- ・アメリカ主要大学教員養成関係学位論文集
- ・ドイツ・スポーツ教育学コレクション

奈良女子

- ・都市問題博士論文集
- ・食品・栄養学に関する文献基本集成リスト(Food and Nutrition. Base Collection.)

和歌山

- ・心身障害者の社会参加と平等に関するコレクション

鳥取

- ・四部分類叢書集成

- ・コロンビア大学教育学部・教育学寄稿論文集

島根

- ・ドイツ最高裁判所全判例集セット

岡山

- ・ドイツ帝国統計書
- ・ドイツ歴史史料集成
- ・グローズ、シレー判例集

広島

- ・ハンサード英国議会討論報告
- ・戦争と平和に関する文献目録
- ・米国国勢調査報告書
- ・ドイツ大学史コレクション
- ・教育資源情報センタードキュメント
- ・Dissertations on Science of Education in Germany, 1945~1980(ドイツ教育科学学位論文集 1945~1980)

山口

- ・四庫全書珍本
- ・米国議会経済合同委員会報告書(第二次世界大戦から現在)

香川

- ・ニューヨーク証券取引上場会社年次営業報告書
- ・アメリカ合衆国連邦裁判所判例集
- ・Revue Philosophique de la France et de l'Etranger vol.1 ~ 167 (1876~1977)

愛媛

- ・大日本古文書正倉院編年文書
- ・世界経済関係資料

高知

- ・中国社会思想史コレクション

福岡教育

- ・英国教育史研究資料

九州

- ・故シャルル・ペラ教授旧蔵書

- ・ドイツ連邦議会「戦後分」議事録
- ・米国判例体系
- ・石崎文庫蔵本
- ・欧州各国公式経済統計資料
- ・英国議会議事録
- ・註釈付米国各州法令集

九州芸術工科

- ・ロイド・モーガン教授建築学関係コレクション

佐賀

- ・東寺百合文書

長崎

- ・巨大企業・経済集中関係資料

熊本

- ・英国議会報告書1801年-1899年
- ・旧幕府引継書
- ・シンテーズ文庫
- ・民国二十年代中国大陸土地問題資料

大分

- ・中世教会史叢書

鹿児島

- ・シボガ号学術探検報告

琉球

- ・Civil Liberty in American History (アメリカ公民権闘争の歴史)
- ・Bulletin of U.S.Bureau of Education (1906~1959) 217vols.
- ・Hawaii Times (ハワイタイムス) 1935年10月~1969年4月 マイクロフィルム版
※1942年12月にハワイタイムスに紙名変更されたがその前の紙名は「日布時事」。

ブラウジング・コーナー

おごり

たかぶること、思い上り、ぜいたくをすることなどをおごりと言うのだが、ここでいうおごりは、ふるまい酒とか、他人にごちそうするとかの意味である。学生時代のことであるが、たまたま沖縄から小切手で送金してきた。同宿の友人と東京銀行へ換金に出かけた。その帰りがけのことである。友人曰く、「俺がおごるから鰯でも食わねえか」とさそってくれた。腹がへっていたし、その当時は学生の身分では鰯などそうやたらと食べられるものではなかったので、僕は心よく応じた。食って後、わが友がおっしゃった。「今もち合わせがないから、君払ってしてくれ。」僕は銀行からおろしたての金でしぶしぶ払わざるを得なかった。一杯食わされたと思ったがあとのまつりだ。何時か必ず仇をとってやると心に誓ったが未だに果たし得ない。

(閲覧課 T.Y.)

図 書 館 事 情

〔第 166回図書館運営委員会〕

日 時：昭和60年12月3日（火）13：30～

場 所：図書館会議室

議題1 図書館運営委員会の日程について

2 共同利用学術雑誌の選択基準について

報告事項

1 学術雑誌見直し検討委員会の報告について

2 贈書運動について（贈呈式、10月31日）

3 計算センター運営委員会の報告について

4 業務電算化について

5 EC資料センターについて

6 国連寄託図書館について

7 昭和60年度国立大学附属図書館事務部長会議の報告について

〔出 張〕

昭和60年12月12日（木）閲覧課長・山田勉

第6回大学図書館研究集会出席・筑波，14日まで

昭和61年2月19日（水）参考調査係長・仲西盛秀

JOIS研修会出席・福岡，22日まで

昭和61年2月24日（月）閲覧係・松原敏夫

ILIS（図書館システム）及び東大文献情報センター接続業務打合せ・京都，3月1日まで

昭和61年2月26日（水）整理係・本郷清次郎

東大文献情報センターとの接続業務の打合せ及び接続図書館説明会出席・東京，28日まで

昭和61年2月27日（木）医学部分館閲覧係・伊佐真一

図書館の電算化業務について・福岡・佐賀，3月1日まで

昭和61年3月6日（木）受入係・渡慶次安子 参考調査係・金城真理子

受入及び参考調査業務に関する調査・鹿児島，7日まで

昭和61年3月10日（月）閲覧係長・松島寛正

国立大学附属図書館における閲覧課関係の電算化について調査・大阪・金沢・富山，14日まで

〔来 館 者〕

昭和60年11月30日（土）国際センター研修生17人

昭和60年12月13日（金）沖縄県学校図書館協議会北部支部51人

昭和61年1月23日（木）福岡教育大学附属図書館中島政子事務官

昭和61年2月13日（木）信州大学附属図書館胡桃澤茂喜事務長

昭和61年2月13日（木）日本開発銀行中央資料室野坂博路室長・高木健次副長

昭和61年2月18日(火) 国立国会図書館収集整理部収集課中嶋三能課長補佐

昭和61年2月27日(木) 鹿屋体育大学教務課中田文博図書係長

〔講演会〕

第20回

昭和60年12月20日(金) 17:10～

講演者: 新城長有(育種学) 農学部教授

演題: ハイブリッド・ライスの過去と現在、将来は?

第21回

昭和61年1月20日(月) 17:10～

講演者: 水野益継(法律学) 教育学部教授

演題: 地域に開かれた大学-学習・余暇の善用を中心に-

第2回現代沖縄文学朗読シリーズ

昭和60年11月30日(土) 14:00～

講演者: 大城立裕(作家)

第3回現代沖縄文学朗読シリーズ

昭和60年12月21日(土) 14:00～

講演者: 川満信一(詩人)

高良勉(詩人)

第4回現代沖縄文学朗読シリーズ

昭和61年1月11日(土) 14:00～

講演者: 岸本マチ子(詩人)

水納あきら(詩人)

第5回現代沖縄文学朗読シリーズ

昭和60年2月15日(土) 14:00～

講演者: 山口恒治(詩人)

与那覇幹夫(詩人)

〔その他〕

沖縄県大学図書館協議会研修会

昭和60年12月16日(月) 15:00～

講演者: 琉球大学附属図書館長 國府田佳弘

演題: 生物資源開発技術-世界の動向と沖縄の役割-

昭和61年1月13日(月)

東京大学文献情報センターと接続

昭和61年2月12日(水) 15:00～

William P Lebra 教授を偲ぶ集い

医学部分館コーナー

〔第11回運営委員会〕

- 日 時：昭和60年11月26日（火）16：00～
場 所：医学部分館会議室
議 題：1.視聴覚機器及びバック・ナンバーの購入について
2.委員の代理出席について
報告事項：1.図書館実習生について
2.製本雑誌の入荷について
3.第33回九州地区医学図書館協議会総会について

〔第1回機種選定委員会〕

- 日 時：昭和61年1月10日（金）15：30～
場 所：医学部分館会議室
議 題：視聴覚機種の選定について

〔臨床系バック・ナンバーの選択会議〕

- 日 時：昭和61年1月16日（木）16：00～
場 所：医学部分館会議室

〔来館者〕

昭和61年1月28日（火）久留米大学医学図書館塩川正隆図書課長
昭和61年2月7日（金）鳥取大学図書館長湯本東吉教授
昭和61年2月13日（木）信州大学附属図書館胡桃澤茂喜事務長
昭和61年2月18日（火）国立国会図書館収集課中嶋三能課長補佐
昭和61年2月21日（金）岐阜大学医学部附属病院長山本道雄教授
昭和61年2月25日（火）大学院保健学研究科実地調査担当委員浅田敏雄、蜂巢進、事務官両角品仁

〔出張〕

昭和61年2月27日（木）佐賀医科大学附属図書館、九州芸術工科大学附属図書館 伊佐眞一

〔開館時間のお知らせ〕

4月5日まで 月-金：8：30～17：00
土：8：30～12：30

4月7日以降 月-金：8：30～21：00
土：8：30～17：00

琉球大学附属図書館報 “びぶろ” 第19巻 第1号〔通巻第70号〕

昭和61年3月20日 発行

発行 琉球大学附属図書館 沖縄県西原町千原1番地

電話（09889）5-2221 内線（2143）編集 びぶろ編集委員会